

職員活動報告

(ジョブコーチ・就労支援コーディネーター・就労支援相談員)

タイトル 「新たなる支援」	就労支援相談員 Y	Vol.182	1月
<p>新年あけましておめでとうございます。</p> <p>私は以前、大手予備校で働いていました。 そこでは年が明けると「大学入試センター試験」の大イベントが待ち構えており、『僕（私）たちの正月は三月だ！』を合言葉にラストスパートする生徒を『親身の指導』の精神で支援していました。凛冽な寒気と闘いながら試験会場に向い、一年間の集大成とも言うべきセンター試験の当日に実力を最大限に発揮する生徒の姿に感動すら覚えました。</p> <p>時が経ち、昨年からは障がい者の就労支援や企業の雇用支援を行う仕事へ転職しました。</p> <p>現在我が国では、障害者雇用促進法の制定や改正の効果もあって、障がい者雇用の割合は着実に伸びているようです。しかし、実際に障がい者雇用を行う企業は、多くの不安や課題を抱えているのが現状です。入職後から日々企業を訪問し、障がい者雇用に関する考えやご意見を伺いますが、その中でよく話題になるのが障がい者雇用を行ううえで、「どのような準備が必要なのか」「何かあったときにどのような対応が適切なのか」「職場の他のスタッフと上手くやれるのか」「精神障がい者の方にどのような配慮が必要なのか」など募集・採用・雇用後に至るまでの障がい者雇用のノウハウを持ち合わせていないことでした。</p> <p>このような相談を受けた場合には必要に応じて何度も企業を訪問し、課題の要因を探り対応法を一緒に検討していきます。一つとして同じケースはありませんので、企業の担当者の話しに耳を傾け、企業の立場を忘れないよう、適切なサービス、的確な支援を心がけています。支援センターでは、障がい者雇用がよりスムーズになっていくように、障がい者雇用サポートデスクを設け、企業セミナーの案内や出前講座の提案なども行っています。</p> <p>私自身も就労支援相談員としてノーマライゼーションの理念を基に自己研鑽を重ねて、障がいのある方や企業の皆様に心配事やトラブルが起きた際にも心強い存在になれるよう新たな支援に邁進していきます。</p>			

職員活動報告

(ジョブコーチ・就労支援コーディネーター・就労支援相談員)

タイトル 「支援者としての自己理解」	ジョブコーチ K	Vol.181	12月
<p>ジョブコーチとして入職し 8 ヶ月が経ちました。その中でとても印象に残っている出来事があります。</p> <p>先日、Aさんの体験実習に同行した時のことです。Aさんはとても熱心に仕事をしていたのですが、作業手順が曖昧なところが見られ間違っただけの仕事をしてしまう可能性があります。体験実習であっても職場のルールを守り責任をもって仕事を行わなければなりません。私は作業手順について再度確認するために、Aさんと話をすることにしました。Aさんは初めよかったのですが徐々に表情が曇り始め、ついに持っていたメモ用紙を破り私の目の前に捨てました。私はとても驚いて、何もすることができませんでした。支援者としてどのような対応が望ましかったのだろうかと考え込んでしまいました。</p> <p>先輩に相談しながら振り返るうちに、いくつか気づく点がありました。まずは私の話し方・伝え方に不足があったということです。Aさんの表情が曇り始めた時点で本人の混乱状況を理解・想像し、Aさんがわかるように工夫しながら話をすることができていませんでした。口頭だけでなく絵や図を書いたりしてみる、実際に機械を動かしながら確認してみるなど、説明の仕方にまだまだ工夫ができたかと反省しました。</p> <p>また、あの時冷静に状況を判断できない心理状態であった点も反省しました。メモ帳を破り捨てたことに驚いてしまい、本人を嫌な気持ちにさせてしまったと謝罪の気持ちでいっぱいになり支援者としての視点を見失っていたように思います。</p> <p>翌日、Aさんにメモ帳を破った理由について尋ねると「作業手順がわからなくなり、相談することができなかった」と聞くことができました。あの時Aさんは「わからないので教えて欲しい」「相談したいので話を聞いてほしい」と伝えただけだと理解することができました。その後Aさんとは、わからないことがあった時の対応方法について一緒に考えました。それ以降落ち着いた様子で 2 週間の体験実習を終えました。</p> <p>今後はより一層利用者の表情の変化を敏感に感じ取りながらコミュニケーションすることを心がけたいと思います。また何か起こった場合でもその行動が起きたきっかけを冷静に考え、支援ができるよう努めたいと思います。</p>			

職員活動報告

(ジョブコーチ・就労支援コーディネーター・就労支援相談員)

タイトル 「日々の積み重ねの大切さ」	就労支援 コーディネーターT	Vol.180	11月
<p>この春からセンターに勤務し、半年経った今、私は支援者として何ができているのか・・・。</p> <p>私事ですが、家族に障がい者がいたことで、幼い頃から、障がいのある方に対する接し方を考える機会が多く、学生時代はボランティアをしたり、様々な支援を受ける機会にも恵まれ、いつしか自分自身も福祉の世界に自然に身を置くようになっていました。</p> <p>家族への手伝いや子育てを通して、いろいろなことを学んできたつもりでしたが、支援者として仕事をするようになって、自分が何も知らないことに気付かされ、一人の人生を左右してしまう重要な仕事をしているのだと思うと、足がすくんでしまうような気持ちになることが多々あります。面談時に状況をきちんと分析できずに他機関を紹介してしまったり、必要以上に介入し過ぎて、ご自身で行動できるところまで支援してしまう状況になったり、至らなかったところを反省する毎日です。</p> <p>初めて担当した方が、無事に就労できた時にはうれしさと安堵感に満たされました。その方は、障がい福祉サービスの事業所に通所されていました。事業所と採用企業と利用者の三者の間に入って調整をしていましたが、事業所の誤解を生んでしまい、センターとしての関わりを勉強させられました。その方自身が事業所で長く働く中で、自分のやるべきことを意識しながらきちんと仕事をすることで、能力を認められ、職場に必要とされる人になったことが自信につながり、採用に結び付いたのだと思います。新しい環境でも長く続いて就労されることを心から望んでいます。</p> <p>それぞれの方に適した就労に結び付くように、一緒に考えながら、ジョブコーチや就労支援相談員と協力しつつ、関係機関と連携しながら、自己研鑽していかないといけないと感じています。これからも、悔いの残らない支援ができるように、利用者の方に喜んでもらえるように、取り組んでいきます。</p>			

職員活動報告

(ジョブコーチ・就労支援コーディネーター・就労支援相談員)

タイトル 『働く』について考えました。」	ジョブコーチ 〇	Vol.179	10月
<p>暑かった夏がようやく終わり、急に朝晩が肌寒く感じる季節に変わりました。服装の調節がとても難しいですね。みなさん、体調を崩したりしていませんか？</p> <p>今日は、最近とても印象に残った話題について紹介させていただきます。 ハートネットTVという番組をご存知ですか？NHKで放送されている30分の番組なのですが、私はよくこの番組を見ています。</p> <p>最近、この番組で「超短時間雇用」という話題を取り上げていました。これは東京大学の近藤教授という方が進められている、障がい者の働き方に関する新しい考え方です。</p> <p>番組の中では、「慢性的な人手不足に悩む神戸市の商店街」が例として取り上げられていました。現代は超人手不足の時代と言われています。特に商店街にあるような小さなお店では、全くアルバイトの応募がなくとても大変な状況が続いているそうです。</p> <p>この商店街にある喫茶店のマスターが、番組に出てきました。このマスターの悩みは、ピカッと光った椅子でお客さんを迎えたいのに、人手不足のために椅子を磨くことができていない、ということでした。一方、近隣の通所施設には、「働いてみたいけど、長い時間は不安だなあ。短い時間だけできる仕事はないかなあ」と思っている男性がいました。この男性は、人前に出ることが苦手で1人でコツコツできる作業を希望していました。</p> <p>喫茶店のマスターは、この男性に椅子を磨く仕事ををお願いすることを考えました。男性は喫茶店にやってきて、試しに1脚だけ磨いてみました。2時間かけて磨きあげた椅子はピカピカに光っていて、それを見たマスターはとても喜んでいました。そして男性はこの喫茶店で雇用され、今も週に1~2回、1日に1脚だけ磨く仕事を続けられているそうです。</p> <p>マスターにとっても男性にとっても、お互いに嬉しい雇用が成立して見ていた私もとても幸せな気持ちになりました。障がい雇用の方法もいろいろあるのだなあ、もっと工夫しなければ、と思いましたし、社会にとっての障がい雇用の意味についても深く考える時間となりました。</p>			

職員活動報告

(ジョブコーチ・就労支援コーディネーター・就労支援相談員)

タイトル 「ご本人にとっての安心材料」	就労支援 コーディネーターS	Vol.178	9月
<p>4月に就労支援センターに異動してきて、5ヶ月が経ちました。</p> <p>就労支援コーディネーターとして、障がいのあるご本人やご家族との面談や、就労に関する企業や関係機関との連絡調整などを行っています。まだまだ手探りのことも多いですが、刺激があり良い緊張感を持って日々仕事に臨んでいます。</p> <p>先日、ある企業への応募を考えているので相談したい、というAさんから連絡がありました。精神障害者手帳をお持ちの発達障がいの方で、ご自身でハローワークの求人を見つけられたそうです。</p> <p>初めてお会いしたところ、丁寧な言葉づかいや誠実な態度が印象的で、アピールポイントとなる経歴をお持ちの方でした。応募にあたり、数回センターに来所いただき、配慮点の確認や、履歴書の添削、面接の練習等を行いました。</p> <p>後日、面接に同行しましたが、Aさんがしっかりと受け答えされ、私は補足程度に配慮点についてだけお伝えしました。その後の実習はお一人で行かれ、振り返りではとても良い評価をいただきました。</p> <p>そして無事採用が決まりました。とても嬉しかったのですが、ふと、私は何か役にたったのだろうか、と疑問に思いました。応募書類などはAさんが考えられたものからほとんど修正しなかったし、私が関わらなくてもご自身の力だけで十分うまく事が進んだのではないかと。</p> <p>ですが、応募から採用に至るまでの間、Aさんから何度も連絡があったことを思い出しました。進捗状況を度々気にされ、応募書類や面接についても何度も確認されていました。几帳面で丁寧な性格だからとと思っていましたが、今思えば不安の表れだったのかも知れません。誰かに相談したい、聞いて欲しい、というお気持ちがあったなら、私も少しお役に立てたのではないかと思います。</p> <p>具体的に何を支援するかだけでなく、相談していい人、頼っていい場所としてあること自体にセンターの存在意義を感じたエピソードでした。これからも相談者の安心材料として、お気持ちに寄り添いながら支援していきたいと思えます。</p>			

職員活動報告

(ジョブコーチ・就労支援コーディネーター・就労支援相談員)

タイトル 「誰にだって思いがある」	ジョブコーチN	Vol.177	8月
<p>太陽の日差しがやわらぐことなく、残暑ひとときわ厳しい毎日ですが、いかがお過ごしでしょうか。私は、秋の訪れが待ち遠しくなっています。</p> <p>私事ではありますが、2歳の娘を保育園に預けています。毎朝、先生に笑顔で迎えていただき、娘と一緒に「お母さん、行ってらっしゃい。」と送り出してください、パワーをもらって出勤しています。お迎えでは、「今日は元気いっぱい水遊びをしましたよ。」、「遊んでいる最中に転んで怪我をしてしまいました。」等、ちょっとした怪我でも細かい報告があり、丁寧に関わっていただいています。しかし時には、「今日はお昼寝をしませんでした。」、「お友達とおもちゃの取り合いをして…」等の話もあります。そのような話があった時にはクラスで先生方を困らせてはないだろうかと気にしてしまいます。家ではイヤイヤ期の我が子に困り果てることも度々です。先生に相談したいと思っても、何十人もの子どもの面倒を見ている中、相談や願いをしたら面倒だと思われるかもしれない、迷惑ではないのだろうか等、利用している立場からすると考え過ぎることがあります。悩みに悩んだ結果、担任の先生に相談すると、「イヤイヤ期は成長している証拠。保育園では大歓迎ですよ。」とっていただき救われました。</p> <p>日頃の体験を通して、利用者やご家族に対する自分自身の関わりについても考えることが多くなりました。自身の態度や発言が、相手に不安や不快な思いを与えていないだろうか、相談しにくい雰囲気を出していないだろうか、と。もちろん、捉え方や感じ方はそれぞれ違うため、自身の対応がどのように思われるかは分かりません。時には、自分の思いが正確に伝わらないことに、もどかしく葛藤することもあります。しかし、それと同時に相手にも思いや考えがあり、それぞれ皆、違うのだということを理解した上で、関係を築いていく必要があるのだと感じています。ある研修会でこのような話がありました。『支援者であるジョブコーチは言葉の示す通り仕事の進め方を伝授するプロです。その仕事を全うする為にも、当事者の「心の声」を聴き続けて頂きたいと願います。』</p> <p>支援者として、また人としても胸に刻んでいこうと思います。</p>			

職員活動報告

(ジョブコーチ・就労支援コーディネーター・就労支援相談員)

タイトル 「働きたい」気持ちを大切に…」	就労支援 コーディネーターM	Vol.176	7月
<p>今年4月の異動で1年8カ月ぶりに就労支援センターに戻ってまいりました。現在、前任者から引き継いだケースの対応に追われる毎日が続いています。10年前に赴任した時と比べると、法定雇用率の改定や精神障がい者の雇用の義務化など制度や社会情勢が変化する中で、働く障がい者の状況も変わってきているのではないかと思います。</p> <p>先日、発達障がいのAさんが働いているB社を訪問しました。AさんはB社の求人が出るまで待って応募し、H28年9月に採用されています。</p> <p>訪問した際、Aさんはラインでの選別作業中でテキパキと作業に取り組まれていましたが、B社の方は「今日は良い状態です。昨年は体調不良で月に5日程しか出勤できないこともありました。」と話されました。体調面に波があり、出勤しても仕事ができず休憩室で休んでいることもあるようでした。2年弱経過する中で、他職員への気配りができるようになった、認められることを実感することで起伏の幅が小さくなったなど、Aさん自身の成長もあったとのことでした。</p> <p>「マイナス面だけを見ると100%。しかし、プラス面も含めると、このマイナスのパーセンテージが小さくなる」「できない事に着目するのではなく良いところを見つけて伸ばす、それが本人にとって満足感ややりがいに繋がる」「Aさんの“ここで働きたい”という気持ちに対して、会社としてできる取り組みをしている」という話をB社の方から伺い、とても印象的でした。</p> <p>支援者としては、課題について取り組み、準備を整えてから求職活動を進めていくと考えていましたし、体調管理や感情コントロール、挨拶などの基本的労働習慣などについては、採用前に身に付けてほしいと考えている事業所が多くあることも事実です。そのような中で、今回Aさんの状況確認のためB社を訪問し、大変有意義なお話をお聞きすることができました。</p> <p>ご本人の“働きたい”という気持ちを大切に、より多くの方が企業就労できるよう努めたいと思います。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。</p>			

職員活動報告

(ジョブコーチ・就労支援コーディネーター・就労支援相談員)

タイトル 「支援の違い」	ジョブコーチT	Vol.175	6月
<p>時が経つのは早いもので、今年もはや半分が過ぎようとしています。</p> <p>ジョブコーチとしてセンターに入職するまで、私は福祉とは異なる職種に就いていました。しかし障がいを持つ弟の家族としては、幼い頃から福祉や医療に密な生活を送ってきたように思います。</p> <p>就労支援を通して様々な経験を重ねるうちに、家族として私が経験してきた支援と専門職としての支援の違いをたくさん感じています。</p> <p>弟は生まれてから一度も発語がありませんでした。そのため常時顔色を伺い、何を求めているかを考え、先回りした援助をする事が自分の中に癖づけられていました。しかし、支援者として知識を深めていくうちに、「自立」に向けて何が必要か、出来る事は何か、どのようにしたら出来るのかという事をよく考えるようになりました。日々の生活の中でも「出来ないならやってあげる」のではなく、「出来ないのであればどう工夫すれば出来るようになるのか」という視点を持つ事が、専門職として大事なのだと感じています。</p> <p>振り返ってみると、ゆっくりとながらも成長していた弟の行動を、私の先回りしたサポートは遮っていたのかもしれませんが、いつしか一人で歩けるようになり、生活上の介助も減り、こちらの言葉を理解しては、身振り手振りで伝えてくれていました。しかし私の「出来ないならやってあげる」の精神はずっと変わらずにいました。その様な中、学校や福祉施設の方々との出会いが、家族では補えない事、気付かない所をサポートし、専門的観点から支援をしてくれていたのだと思います。</p> <p>今でもついつい、先回りした援助をしそうになることがあります。そんな時は「はっ」と自分の癖を見つめ、一步踏みとどまるようになりました。これからも支援者としてよりよいサポートが出来るよう、知識の向上に努めていきたいと思います。</p>			

職員活動報告

(ジョブコーチ・就労支援コーディネーター・就労支援相談員)

タイトル 「2度目の春」	就労支援相談員H	Vol.174	5月
<p>平成30年度が始まってひと月余り。キャリアアドバイザー（就労支援相談員）としてセンターに入職し、2度目の春を迎えました。</p> <p>1年目は初めて経験することが多く、学ぶことばかりで、企業の皆様からは頼りない、物足りないと感じる点もあったかと思います。その中でも、様々な方から、障がい者雇用における課題や悩みなどのお話を伺うことができました。</p> <p>今後も、一般企業で働いた後、福祉を学んだ経験を活かし、企業の状況を把握した上で、障がい者雇用におけるサポートを行っていきたいと思っております。</p> <p>さて皆様ご存知のとおり本年4月1日より、障がい者雇用に大きな変化がありました。</p> <p>民間企業の障がい者雇用率が2.0%から2.2%へ引き上げられ、障がい者雇用の義務範囲も従業員50名以上から45.5名以上に変更になり、精神障がい者の雇用義務化が始まりました。</p> <p>さらには精神障がい者の短時間労働者の算定方法に特例措置が設けられるなど、雇用促進に向けての動きが活発になっています。一方、企業の皆様は雇用を進めるに伴い様々な悩みも出てきているのではないのでしょうか？</p> <p>センターでは昨年7月、「企業様向け障がい者雇用サポートデスク」を開設致しました。</p> <p>新規雇用に関する相談だけでなく、雇用中の障がいのある社員に関する相談や、一緒に働くスタッフに向けて障がい者雇用に関する勉強会を開いて欲しいなど、様々なお問い合わせをいただいております。</p> <p>個別の勉強会のご要望がございましたら、出前講座も行っております。</p> <p>詳細は事前に担当者様と打ち合わせの上、調整させていただきます。</p> <p>お問い合わせだけでも結構です。</p> <p>まずはお気軽に障がい者雇用サポートデスク（TEL:092-711-0839）までご連絡ください。</p>			

職員活動報告

(ジョブコーチ・就労支援コーディネーター・就労支援相談員)

タイトル 「つどいを担当して」	ジョブコーチI	Vol.173	4月
<p>4月に入職し、あっという間に一年が経とうとしています。</p> <p>今年度、私は「はたらく仲間のつどい」（以下、「つどい」）を担当しました。このつどいは就労している方の交流、就労継続に対する意欲の維持、余暇の過ごし方の参考になることを目的に、年2回開催しています。</p> <p>例年7月にボウリングと食事会、2月にはホテルで食事会やゲームを行っています。</p> <p>毎年楽しみにしている方から、案内以前より「開催日はいつ？案内はいつ頃届くの？」という問い合わせを多数いただきました。「こんなにも楽しみにして下っているのか？」とつどいの開催を心待ちにされていることを実感し、嬉しくもあり、また身が引き締まる思いでもありました。</p> <p>80名を超える参加者と約20名の職員が一堂に会し、いずれも大変盛況で圧倒されました。</p> <p>先日の2月開催では、バイキング形式の美味しい食事を頂きながら、4組の方からの楽器演奏等のパフォーマンス、テーブル毎のカラオケ、ビンゴ、ジャンケンゲームで盛り上がりました。</p> <p>自分の役割に必死で、周りを見る余裕がなく、気付いたらあっという間に終わっていたという感覚でした。皆さんの笑顔や、「楽しかったです。明日からまた仕事頑張ります」という言葉に励まされ、つどいっていいなあと疲れも吹き飛ばす思いでした。</p> <p>来年度から、年1回の開催になりますが、また多数の方にぜひ参加して頂ければと思います。</p> <p>会を通じて、私自身、楽しく余暇を過ごす大切さを改めて感じました。日々の仕事とプライベートとの良好なバランスは充実した毎日を送るための相乗効果に繋がると思います。個人的には上手に休むことが苦手なので、双方に意識を向けつつ、今後の支援に活かすことが出来ればと思います。</p>			